

風や雨の強さの目安

平均風速(m/秒)	予報用語	想定される影響
10以上～15未満	やや強い風	<ul style="list-style-type: none"> 風に向かって歩きにくい 取りつけが不完全な看板やトタンが飛ぶ
15以上～20未満	強い風	<ul style="list-style-type: none"> 風に向かって歩けない 転倒する人が出る ビニールハウスが壊れ始める
20以上～25未満	非常に強い風(暴風)	<ul style="list-style-type: none"> しっかり立っていないと転倒する 風で飛ばされたものでガラスが割れる
25以上～30未満	非常に強い風(暴風)	<ul style="list-style-type: none"> 立ってられない ブロック塀が倒れる
30以上	猛烈な風	<ul style="list-style-type: none"> 屋根が飛ばされる 木造住宅の全壊が始まる



1時間雨量(ミリ)	予報用語	想定される影響
10以上～20未満	やや強い雨	<ul style="list-style-type: none"> 雨の音で声がよく聞き取れない 長く降り続けると危険
20以上～30未満	強い雨	<ul style="list-style-type: none"> どしゃぶりで側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる
30以上～50未満	激しい雨	<ul style="list-style-type: none"> 道路が川のようになる がけ崩れや山崩れが起きやすくなる
50以上～80未満	非常に激しい雨	<ul style="list-style-type: none"> マンホールから水が噴出する 地下に雨水が流れ込む 土石流が起こりやすい
80以上	猛烈な雨	<ul style="list-style-type: none"> 大規模な災害が発生する恐れが強い 厳重な警戒が必要

1 避難場所・避難経路

避難場所は市町ごとに指定されています。分からない場合は市町へ問合せましょう。

◎避難場所

2 災害時の家族間の連絡方法

災害が発生すると被災地への電話が集中し、つながりにくい状況になります。あらかじめ家族の安否の確認方法を決めておきましょう。

◎落ち合う場所

◎安否情報を取り次ぎしてくれる遠方の親戚や知人

「災害用伝言ダイヤル171」の活用

災害の発生により被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった時に提供される声の伝言板。以下の日には**体験利用**ができます。

- 毎月1日、15日
- 防災週間(8/30～9/5)

伝言の録音方法

「171」にダイヤルする
↓ ガイダンスが流れます。
録音の場合「1」
↓ ガイダンスが流れます。
(XXXX)XX-XXXX
↓ ガイダンスが流れます。

録音(30秒以内)

伝言の再生方法

「171」にダイヤルする
↓ ガイダンスが流れます。
再生の場合「2」
↓ ガイダンスが流れます。
(XXXX)XX-XXXX
↓ ガイダンスが流れます。

再生

(XXXX)XX-XXXXには被災地内の方も、被災地外の方も被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルしてください。

問合せ：栃木県県民生活部消防防災課
電話：028-623-2129
HP：<http://www.pref.tochigi.lg.jp/c02/index.html>

保存版

我が家の防災計画 災害への備え



栃木県

震度階級表

階級	人や建物などへの主な影響
0	・地震計に記録されるだけで、人はゆれを感じない
1	・屋内で静かにしている人の一部がわずかなゆれを感じる
2	・屋内で静かにしている人の多くが揺れを感じる ・電灯などのつり下げ物がわずかに揺れる
3	・棚の食器類が音を立てることがある ・屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる
4	・ほとんどの人が驚く ・つり下げ物は大きく揺れ、棚の食器類は音を立てる
5弱	・ほとんどの人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる ・棚の食器類や本が落ちることがある ・すわりの悪い置物の多くが倒れ、固定していない家具が移動することがある ・耐震性の低い住宅では、壁などにわずかな亀裂がみられることがある
5強	・物につかまらなさと歩くことが難しいなど、多くの人が行動に支障を感じる ・棚の食器類や本で落ちるものが多くなる ・補強されていないブロック塀や据付けが不十分な自動販売機が倒れることがある ・耐震性の低い住宅では壁などにひび割れ、亀裂がみられることがある
6弱	・立っていることが困難になる ・固定していない家具の多くが移動・転倒する。 ・ドアが開かなくなることがある ・耐震性の低い木造住宅では傾いたり、倒壊するものもある
6強	・はわないと動くことができない。飛ばされることもある ・窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる ・耐震性の低い木造住宅は傾くものや、倒壊するもの多くなる
7	・揺れにほんろうされる ・固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。補強されているブロック塀も破損するものがある ・耐震性の高い木造住宅でも、まれに傾くことがある ・耐震性の低い鉄筋コンクリート造の住宅では、倒壊するもの多くなる



保存版 災害への備え 我が家の防災計画

いつ起きるか分からない災害。地域の防災力は、自分の身は自分で守る「自助」、みんなで助け合う「互助」「共助」、公的機関による救助や援助の「公助」がキーワードです。いざというとき、「備えをしておけばよかった」と後悔しないように、今日からでも災害への備えを始めましょう。

自分と家族を守る 自助

防災の基本は、自分や家族の命を、まずは自分で守ること。災害のとき、家族が慌てずに行動できるように、普段から話し合って確認しておきましょう。

非常持出品

非常時に備えて最低3日分の備蓄をし、すぐに避難できるようにしておきましょう。

●我が家の保管場所

●持ち出す人

非常持出品は持ち運びが便利なリュックサックなどに入れて準備

- 日用品**
携帯ラジオ、予備の電池、多機能ナイフ、ライター、トイレットペーパー、ビニールシート、携帯用カイロ、新聞紙、生理用品など
- 救急用品**
包帯、消毒薬、風邪薬、ばんそうこうなど
- 衣類**
タオル、下着、雨具、防寒具など
- 貴重品**
現金(小銭も多めに)、印章、預金通帳や保険証のコピーなど
- 食料品**
缶詰、乾パンなど、飲料水(1人1日分の目安は3リットル)
- その他我が家に必要なもの**
(高齢者や赤ちゃんの用品など)



けがや、やけどをさけるため避難時はヘルメット、長袖シャツ・長ズボン(綿製品)、軍手で防御

笛は救助を求めたり注意を促したりするときに役立ちます

足元を明るく照らす懐中電灯はすぐ取り出せる所に

履き慣れた底が厚めの靴

日頃からの対策

家具などの転倒防止、住宅・ブロック塀の耐震性も確認しておきましょう。火災への対策も忘れずに。



地震や竜巻が起きたら

①落ちついて身の安全を確保

- ・机やテーブルの下に身を隠す
- ・落ちて外へ飛び出さない
- 地震のときは……
- ・ドアや窓を締めて逃げ道を確保
- 竜巻のときは……
- ・カーテンやシャッターを閉める
- ・窓から離れる

②火災を防ぐ

- ・大きな揺れがおさまってから火を消す
- ・出火していたら初期消火

③正しい情報を収集する

・テレビやラジオなどで気象情報等の必要な最新情報を収集しましょう。

メール

● 栃木県防災メール
県では地震や気象の情報をメールでお知らせしています
○ 配信内容 地震情報、気象警報・注意報、火山情報、県からのお知らせ、光化学スモッグ情報等の生活情報
○ 登録方法 携帯電話のバーコードリーダーでQRコードを読み込んでください

ラジオ

● 栃木放送 黒夫1530、黒北864、両毛1082(KHz)
● FMとちぎ 宇都宮70.4、足利78.3、塩谷78.5、今市79.1、妻生84.4(MHz)
● とちぎテレビ NHK宇都宮放送局

テレビ

警報・注意報とは?

気象庁は、大雨や強風などの気象現象によって災害が起こるおそれのあるときに「注意報」を、重大な災害が起こるおそれのあるときに「警報」を発表して、注意や警戒を呼びかけます。



■警報の種類

気象(暴風、暴風雪、大雨、大雪)、地面現象、津波、高潮、波浪、浸水、洪水

■注意報の種類

気象(風雪、強風、大雨、大雪、雷、乾燥、濃霧、霜、なだれ、低温、着雪、着氷、融雪)、地面現象、津波、高潮、波浪、浸水、洪水

土砂災害警戒情報とは?

大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で、土砂災害発生の危険度が非常に高まったときに、市町村長が避難勧告等の災害応急対応を適時適切に行えるよう、また、住民の自主避難の判断の参考となるよう、対象となる市町村を特定して都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報です。



特別警報の発表基準

◆気象等に関する特別警報の発表基準

現象の種類	基準
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合
暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により
高潮	暴風が吹くと予想される場合
波浪	高潮になると予想される場合
暴風雪	高波になると予想される場合
大雪	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合
	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合

◆津波・火山・地震に関する特別警報の発表基準

現象の種類	基準
津波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合(大津波警報を特別警報に位置づける)
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合(噴火警報(居住地域)を特別警報に位置づける)
地震	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合(緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づける)

自主防災組織とは?

地域住民が自主的に防災活動を行う組織です。一般的には自治会単位等で組織され、災害時に地域の被害を最小限に抑えることが役割です。



日常的には、防災訓練や学習会の実施、防災マップの作成などを行い、災害時には、初期消火や住民の避難誘導、避難所の運営などを行います。日頃から住民自らまちの現状や問題点を把握し、自分たちが暮らすまちでも災害は起こりうるという危機感をもって、活動を進めていくことが重要です。

消防団とは?

消防団は、消防署と連携し火災や災害への対応、啓発活動等を行う組織です。常勤の消防職員が勤務する消防署とは異なり、普段は各自の職業に就き、火災や大規模災害発生時には現場へ駆け付け、その地域での経験を活かした消火・救助活動を行います。近年は、女性消防団員も増加しており、街頭啓発活動や地域の見守り、救護活動などの分野で活躍しています。



竜巻豆知識

竜巻が身近に迫ったときの特徵

竜巻に遭遇した人からは次のような声聞きます。このような場合には、あなたの身に危険が迫っています。

- ・雲の底から地上に伸びる漏斗状の雲を見た。
- ・飛散物が筒状に舞い上がるのを見た。
- ・ゴーという音がしたのでいつもと違うと感じた。
- ・気圧の変化で耳に異常を感じた。



竜巻注意情報とは?

竜巻注意情報は、積乱雲の下で発生する竜巻、ダウンバースト等による激しい突風に対して注意を呼びかける情報で、雷注意報を補足する情報として、各地の気象台等が担当地域(概ね一つの県)を対象に発表します。有効期間を発表から1時間としていますが、注意すべき状況が続く場合には、竜巻注意情報が再度発表されます。